

The logo for the Joint Intelligence Support Section (JISS) is displayed. It features the letters "JISS" in a large, bold, dark blue serif font. A thin, light blue horizontal line runs across the top of the image, partially obscured by the top of the letters. A solid blue horizontal bar runs along the bottom of the image, beneath the letters.

Spring 2005

スポーツ界の 新たな一歩。

Take a Step Forward!

[特集] タレント発掘

【クローズアップ】JISS心理グループ紹介

浅見センター長 退任にあたって



浅見センター長 退任にあたって

2001年から4年間、先頭に立ってJ-ISSを引っ張ってきた浅見センター長がこの3月で勇退します。浅見センター長は我が国のスポーツ科学研究の先駆けであり、国の中枢となるスポーツ科学センターの必要性を早くから唱えてきました。J-ISSの計画段階から関わってきた浅見センター長にこの4年間を振り返ってもらいました。

4年間を振り返って

J-ISSが設立されることは1980年代からほぼ決定していました。私は計画前の段階から関わっていたので、できることならこのJ-ISSで働けたらと考えていました。当初、東京大学を定年で終わる頃、J-ISSの準備室が設立される予定でしたが、いろいろな事情があつてこれが延びてしまひ、縁がなかったのだな、とあきらめていました。そのあとに日本体育大学に4年勤務し、大学院博士課程の完成年度にタイミングよくJ-ISSができました。センター長への就任を打診されました。こうして初代センター長としてJ-ISSの立ち上げに関わられたことは本当に幸運だったし、光栄だったと思います。



私の在任期間で最大のイベントはアテネオリンピックでした。アテネの成績がシドニーから比べて上向きになるのはJ-ISSにとつては非常に大きなポイントでした。スポーツ振興基本計画に基づき、国の政策が展開され、これに基づいたJOCゴールプログラムも動き出した。これにほぼ時を同じくしてJ-ISSも動き出した。こういったタイミングの良さがありました。J-ISSには研究、サポートなどさまざまな事業がありますが、私はサポート事業が一番大事だと考えていました。特にJ-ISS内に強

化拠点を持つ競技団体との関係がうまく行き始めた。なかでも J・I・S とうまくやっていたという受け皿のある競技団体と良い関係を築くことができた、良い成果を生み出すことができました。また、クリニクが中にあることが競技者のコンディション作りという意味でよい機能を果たしたと思います。もうひとつ J・I・S が果たした役割で大きかったのは、この狭い施設に複数の競技の拠点があり、常に顔を合わせる場面があり、コーチ同士、競技者同士が仲間意識を持てるようになった。これはトレセンのこの意義で、チームジャパンとしてお互いに切磋琢磨し、コーチ同士が情報交換をすることが J・I・S でできていた。これに医・科学・情報のサポートが付加され一層効果が上がったと思います。

ナショナルトレーニングセンターの整備とJ-SSS

こどもたちと

これからナショナルリーグセンターの整備とJ-ISS ナショナルトレーニングセンターの整備とが、我々のサポートの幅も広がってくる。こういったなかで競技団体の医・科学スタッフと良い関係を築いていくことが重要になってくると思います。これまでJ-ISSと競技団体の医・科学スタッフが共同作業的にサポートや研究に取り組んだというケースは

あまり多くない。せっかく各競技団体に医・科学スタッフが整備されているのですから、どうやうに体制となったサポート体制を確立していくのか、という大きな課題です。各競技のことは各競技の医・科学スタッフの方がよく知っている。J・I・Sの研究員の数が今後飛躍的に増えていくことは望めないので、こういった競技団体のスタッフが十分活躍できるような環境を構築して行かないと、十分なサポート活動を実施することはできなくなってしまうと思います。実際、平成17年度からこれまで、競技団体に委託していた研究を共同研究という形で二緒に活動する場を設けることにしています。J・I・Sのスタッフは契約満了に伴い、J・I・Sを離れ、競技団体のスタッフとしてJ・I・Sと連携しながら競技団体をサポートするという形態を含めた競技団体とのネットワークの構築を進めなければならないのではないかと思います。事実、このようなケースで連携を進めている競技もあります。今後、現在ある形をさまざまに形に発展させていったサポート体制の確立を目指す必要があるでしょう。

ネットワークの構築

地域医・科学センター、体育系大学、競技団体、JOCとのネットワークを構築してきましたが、地域に關しては順調に進んできていると思います。これはJSSSがスポーツ医・科学センターの中核的な位置にあることが最大の理由だと思います。しかし、JOC、競技団体、体育系大学など対等な位置にある機関とのネットワークは難しい。今後はこういう機関とのネットワークをより強力に推進していく必要があるでしょう。また、国際的な機関として世界とのネットワークの構築も目指さなくてはなりません。特に東アジアは共通の文化圏で、スポーツ界においてもヨーロッパ、アメリカに対抗しうる力を持っています。言葉の問題はありますが日・中・韓のネットワーク作りも今後の重要な課題となります。

こともたちと競技者の接点を作るようなイベントを企画できなかったことは心残りです。トップアスリートが子どもたちと遊ぶことを通してスポーツの楽しさを教えるような将来を見据えたイベントを競技団体と連携して開催したかたと思います。

あと、J-ISSの活動を一般の方に広報するようなジャーナルの発行もしたかった。

ています。

事業区分
ハウス、芝生等の施設整備助成
地域スポーツクラブの活動助成
共同体が行うスポーツ活動助成
のある選手の発掘、育成等への助成
▽団体が行うスポーツ活動助成
技大会開催助成
スポーツ選手、指導者への個人助成への
合計
約 4.5 億円を国庫に納付し、自然保

いづれにせよ、やり残したことは山ほどあるし、課題も山積みです。でも我々のような組織は常に進歩していかなくてはならない。研究もサポートもこれと同じです。これをやめたらJ-ISSは終わりだと思います。J-ISSのスタッフは今後も常に挑戦し続けてもらいたいと思います。

A photograph of a large, modern building with a blue and white facade, featuring a prominent grid-like structure. The building appears to be a sports facility or stadium. In the foreground, a person is standing on a green lawn, looking towards the building. The sky is clear and blue.

**totoの収益による助成が、
日本のすべてのスポーツをアシストしています。**

totoは、スポーツ振興のために
これまで約88億円の助成を行いました。

事業区分	件数	金額(億円)
クラブハウス、芝生化等の施設整備助成	72	13.9
総合型地域スポーツクラブの活動助成	783	14.8
地方公共団体が行うスポーツ活動助成	870	6.8
将来性のある選手の発掘、育成等への助成	93	4.2
スポーツ団体が行うスポーツ活動助成	1056	18.4
国際競技大会開催助成	8	24
優秀なスポーツ選手、指導者への個人助成への充当	—	5.9
合計	2882	88

※この他、約45億円を国庫に納付し、自然環境の保全やスポーツの国際交流に関する事業等に充当されています。

独立行政法人日本スポーツ振興センター スポーツ振興事業部 <http://www.naash.go.jp/toto>

 19歳未満の方の購入又は譲り受けは法律で禁じられています。払戻金も受け取れません。



Sport 2005

**International Year
of Sport and
Physical Education**

www.un.org/sport2005

国連は、2005年を「スポーツと体育の国際年」と位置づけています。

Quarterly News Letter

JISS
Spring 2011



JISS 国立スポーツ科学センター

季刊ニュースレターJISS Spring 2005 平成17年3月31日発行(年4回発行)

発行 独立行政法人日本スポーツ振興センター 国立スポーツ科学センター

編集・発行者 浅見 俊雄

〒115-0056 東京都北区西が丘3-15-1 <http://www.iiss.naash.go.jp/>